禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D19　D20

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度 技能検定
３級 鉄筋施工 学科試験問題
(鉄筋施工図作成作業)
(鉄筋組立て作業)

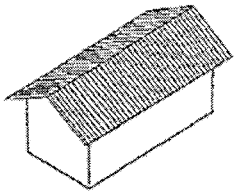
1. 試験時間　１時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
      イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　四辺が梁に囲まれたスラブを四辺固定スラブ、一辺のみが梁に固定されているスラブを片持ちスラブという。

2　S造とは、鉄骨鉄筋コンクリート造のことである。

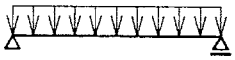
3　火打ちとは、垂直材と水平材でつくる隅角部を固める斜材である。

4　次図の屋根形状の名称は、寄棟屋根である。



5　力の三要素とは、力の大きさ、力の方向(向き)及び力の伝わる速さをいう。

6　次図は、単純梁に作用する等分布荷重を表している。

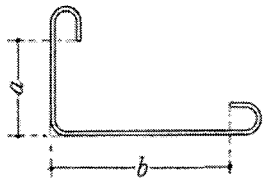


7　鉄筋と鉄筋を結ぶ鉄線には、一般に、φ0.8mm(#21)の結束線が使用される。

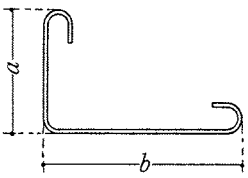
8　バーベンダーとは、鉄筋を所定の長さに切断する機械である。

9　鉄筋は、加熱して曲げ加工してはならない。

10　日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS)によれば、次図のA及びBにおいて、鉄筋加工を指示するときの加工寸法(*a*、*b*)の測り方として、正しいものはBである。

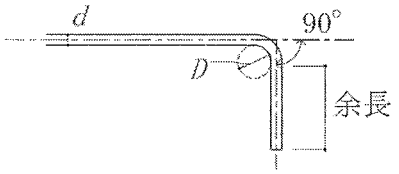


A



B

11　日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS)によれば、次図のように鉄筋の末端を90°折曲げフックで加工する場合の余長は、一般に、6d以上と規定されている。

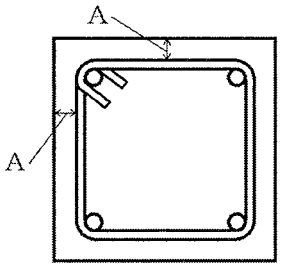


12　鉄筋を配筋する場合の鉄筋相互のあきの最小寸法は、鉄筋径(異形鉄筋では呼び名の数値)の1.5倍、粗骨材の最大寸法の1.25倍及び25mmのうち、最も大きい数値とする。

13　柱及び梁の主筋は、それぞれ柱筋、梁筋ともいう。

14　鉄筋の圧接とは、鉄筋の引抜けを防ぐために、一方の部材の鉄筋を延長して他方の部材に埋め込むことをいう。

15　鉄筋のかぶり厚さとは、次図におけるA部の寸法のことをいう。



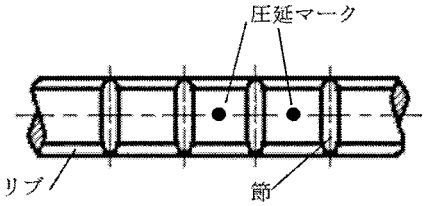
柱断面図

16　柱の帯筋は、フープとも呼ばれている。

17　コンクリートの養生において、せき板を早めに取り外し、コンクリートの水分を蒸発させることが望ましい。

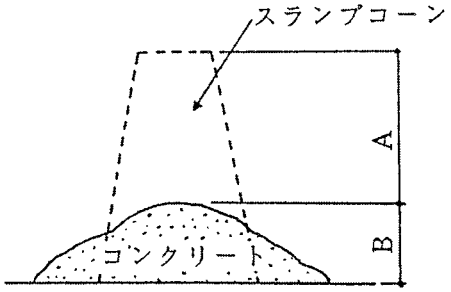
18　コンクリートの打込み・締固め作業において、棒形振動機(内部振動機)の先端は、鉄筋や型枠などに接触させた方がよい。

19　日本産業規格(JIS)によれば、異形棒鋼のSD345の圧延マークによる表示は、次図のように突起の数2個(・・)で表す。



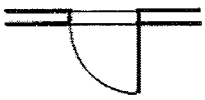
20　鉄筋のサポートやスペーサは、一般に、計画した配筋位置を保持したり、かぶり厚さを確保するために使用するものである。

21　次図は、コンクリートのスランプ試験におけるスランプコーンを引き上げた直後のコンクリートの状態を示しており、スランプとは、Aの寸法のことをいう。



22　セパレータは、型枠工事等に使用する金具である。

23　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、片開きとびらを表す平面表示記号である。

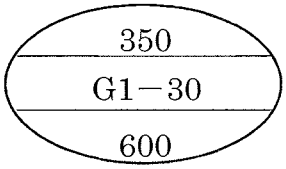


24　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、コンクリート及び鉄筋コンクリートを表す材料構造表示記号である。



25　日本産業規格(JIS)の「製図－図形の表し方の原則」によれば、中心線には、細い二点鎖線を使用する。

26　施工図(コンクリート躯体図)における次に示す600は、梁幅を示している。



27　クレーンに係る作業で鉄筋材料をつり上げる際のワイヤロープは、玉掛け用ワイヤロープを使用する。

28　労働安全衛生法関係法令によれば、労働者は、火災が生ずるおそれのある場所においては、火気を使用してはならない。

29　労働安全衛生法関係法令によれば、3mの高さから物体を投下する場合は、下に人がいなければそのまま投下してもよい。

30　労働安全衛生法関係法令によれば、屋内に設ける通路については、通路面から高さ1.8m以内に障害物を置いてはならない。